

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)	—			
主な取組	しまくとぅば普及継承事業	実施計画 記載頁	46	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅばの効果的な普及推進の方策等について、有識者の議論・検討の実施。 研究者や活動団体等関係者のネットワークの構築。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	しまくとぅばの効果的な普及推進の方策等について有識者等による議論・検討を実施					→	県
	研究者や活動団体等関係者のネットワークを構築						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	26,462	26,462	西日本地区国語問題研究協議会(沖縄大会)へパネラーとして参加した。 日本の危機言語・方言サミットIN八丈島へパネラーとして参加した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
活動団体等関係者のネットワークの構築			—	2件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	8月に文科省主催の西日本地区国語問題研究協議会(沖縄大会)や12月の八丈町開催の日本の危機言語・方言サミットIN八丈にパネラーとして招かれ、各研究者や文化団体と議論をすることで、ネットワークの構築をすることができたため、順調である。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	28,851	「しまくとぅば」読本(3万5千部)を増刷する。 講師養成教室(10カ所)を開催する。 第3回しまくとぅば県民大会(9月予定)を開催する。 危機言語・方言サミット(9月予定)を開催する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

10か年計画の「しまくとぅば」普及推進計画の基、メディアへの積極的な露出やPR等を行い、県民にしまくとぅばに触れる機会を増やしていく取組を行った。また、県民大会を開催するなど全県的かつ横断的な県民運動を行うことにより、県民に効果的な普及を図ることができた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,992人 (23年度)	6,237人 (26年度)	16,500人 (28年度)	4,245人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	10か年の「しまくとぅば」普及推進計画に基づき、各種イベントの開催や、学校でのしまくとぅば読本の活用など、全県的かつ横断的な県民運動を展開し、県民に「しまくとぅば」を効果的に普及することにより、H28目標値の16,500人は達成できる見込みである。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・県民の「しまくとぅば」の使用能力は年々弱まっており、若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、今一度「しまくとぅば」の重要性を再認識し、「しまくとぅば」を普及するため、どういった方法が効果的なのかを有識者からなる普及推進専門部会の意見等も踏まえ、検討しなければならない。
- ・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、それぞれの期について事業効果を検証する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・県民運動の最終目的である「しまくとぅば」を使う人を増加するには、その事業効果を検証・改善する必要があるため、「しまくとぅば」の県民意識などについて、定期的な調査を実施する必要がある。
- ・県民運動等の取組について、日常的に目に(耳に)する場所で、広く周知する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・有識者からなる普及推進専門部会の意見を踏襲し、平成25年度に策定した「しまくとぅば普及推進計画」(平成25年度～平成34年度)に基づき、運動を実施する。
- ・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を、3年毎に実施する。
- ・県民運動の取組を広く周知するため、路線バス内でしまくとぅばアナウンス等を実施する。
- ・今年度は、市町村文化協会や話者育成を行っている民間団体等を集め、情報交換や連携を促す機会を設ける。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承		
(施策の小項目)	—		
主な取組	しまくとぅば体験機会の創出	実施計画 記載頁	46
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を超えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅば県民大会(9月)を開催する。 しま <u>う</u> とぅば語やびら大会(9月)を開催する。 児童にしまくとぅばによる読み聞かせ(年10回)を実施する。 等						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
			しまくとぅばに関するイベント等の開催 「しまくとぅば語やびら大会」(沖縄県文化協会主催)の 開催支援			→	文化協会 NPO法人等
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば 普及継承事 業	26,462	26,462	しまくとぅば県民大会の開催(県の取組、特別講演、優良事例者、お笑い劇団ショー等)し、610人が参加した。(平成26年9月20日) しまくとぅば語やびら大会を開催し、480人が参加した。(平成26年9月20日)	一括交付 金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばに関するイベント等の開催			—	年4回
しまくとぅば語やびら大会の開催 等			—	年1回(20回目)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
やや遅れ	「しまくとぅば」県民運動推進事業の一環として、県民大会や語やびら大会等を年1回開催し、県民に「しまくとぅば」に親しめるように普及ソングやお笑い劇団ショーを行い、県民にしまくとぅばに触れる環境を創出したが、成果指標の達成には大きく及ばなかったため、やや遅れとした。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	28,851	「しまくとぅば」読本(3万5千部)増刷して、県内の全小学校5年生、中学校2年生に配布して、しまくとぅばに触れる機会を増やす。 第3回しまくとぅば県民大会開催(9月予定)を開催し、県民に「しまくとぅば」に親しみをもってもらおう。等	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

10ヶ年計画の「しまくとぅば」普及推進計画の基、メディアへの積極的な露出やPR等を行い、県民にしまくとぅばに触れる機会を増やしていく取組を行った。また、県民大会を開催するなど全県的かつ横断的な県民運動を行うことにより、県民に効果的な普及を図ることができた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,992人(23年度)	6,237人(26年度)	16,500人(28年度)	4,245人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明
第2回「しまくとぅば」県民大会大会に610人、「しまくとぅば」語やびら大会に延べ480人が参加した。平成26年度には、しまくとぅば体験イベント等参加者の累計は6,237人となった。
10ヶ年の『「しまくとぅば」普及推進計画』に基づき、各種イベントの開催や、学校でのしまくとぅば読本の活用を働きかける他、市町村文化協会と連携し話者を活用した取組を推進するなど、全県的かつ横断的な県民運動を展開し、県民に「しまくとぅば」を効果的に普及することで、H28目標値の達成に向けて取り組んで行く。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・これまでの取組により、しまくとぅばを体験する機会を創出は、順調に推移しているが、各地域で「しまくとぅば」の話者が少なくなっていることに伴い、その地域の「しまくとぅば」を体験する機会が減少している。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・「しまくとぅば」の話者が少なくなっているが、「しまくとぅば」は各地域で異なるため、「しまくとぅば」の多様性を尊重つつ、各地域において「しまくとぅば」講師を育成する必要がある。
・しまくとぅば体験機会の創出による事業効果を検証するため、調査等を行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・各地域で「しまくとぅば講師育成講座」を行い、各地域の「しまくとぅば講師」を育成する。
・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を、3年毎に実施する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)	—			
主な取組	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	実施計画 記載頁	47	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1件以上 助成件数	1件以上	1件以上	2件以上	2件以上		企業 NPO法人 等
	しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	188,460	170,937	沖縄芝居再生・普及プロジェクト事業では保育園や学校に出向き沖縄芝居の巡回公演を34校(園)で開催、社会人を対象に後継者育成講座も14回行い、また沖縄方言「しまくとぅば」(役者言葉)継承事業では24回の講座を開講し39名の受講生が参加した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援			1件	2件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	沖縄芝居再生・普及プロジェクト事業や沖縄方言「しまくとぅば」(役者言葉)継承事業を支援することで計画値1件達成することができた。それぞれの事業では保育園や地域巡回公演を通して、しまくとぅばの普及啓発に努めたり、しまくとぅば講座を開き、言葉の移り変わりや各地方の方言の違いなど学び、しまくとぅばを積極的に学び使おうとする意識の変化も見られた。 活動指標の計画値1件に対し、実績値が2件であるため、順調である。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	148,485	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成など1件以上、補助する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

各事業者の事務処理能力の格差を改善するため、応募前に事前説明会を行い、事務手続き、事業執行上の注意点など周知を図り、円滑な執行に努めた。
採択・不採択の基準の明確化について、事前説明会や募集要項において具体例を掲載し周知を図り、不採択となった事業者へはその理由、原因並びに事業化につながる助言指導を引き続き行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者数(累計)	1,992人(23年度)	6,237人(26年度)	16,500人	4,245人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	沖縄芝居再生・普及プロジェクト事業では保育園や学校に出向き沖縄芝居の巡回公演を34校(園)で開催、社会人を対象に後継者育成講座も14回行い、また沖縄方言「しまくとぅば」(役者言葉)継承事業では24回の講座を開講し39名の受講生が参加するなど、H28目標達成に繋がる取り組みを行った。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・事業者の取り組みについて、情報発信が十分でなく、口伝てに広がったところがあった。沖縄芝居をすることに重点を置くあまり、広報宣伝が十分でなかった。
- ・しまくとぅばの普及啓発については、若年層へ働きかけを進める必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・しまくとぅばの普及につながる機会を増やすため文化団体間、異業種間とのネットワークづくりに努め、また学校現場で公演を行えるよう連携を図る。
- ・現在の実施スキームについては引き続き継続するが、文化関係団体への助言、指導を事業提案前から関わり、しまくとぅばの普及啓発に繋がる事業者の掘り起こしを図る。

4 取組の改善案(Action)

- ・年度中に1回採択事業者等を集め情報交換や連携を促す機会を設ける。
- ・応募から事業執行まで文化関係団体へ助言、指導をこまめに行う。事業提案前は事業計画書の記載方法や採択される上でのポイントなど指導し、不採択となったあとも次年度につながるよう事業の考え方、取り組み方法を助言指導し、事業者の掘り起こしを図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
施策	②伝統行事の伝承・復元	
(施策の小項目)	—	
主な取組	地域文化継承支援事業	実施計画 記載頁 47
対応する 主な課題	○各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内各地で実施されている伝統芸能、伝統行事等の調査・情報収集を行い、本県の文化・地域振興に図るためなどに活用する。文化年鑑の作成については類似の冊子との差別化を調整しつつ、作成を検討する。また、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
				3回以上 シンポジウ ム開催	→	→	県 文化協会
	伝統芸能等のデータベース情報収集・作成			各地域でのシンポジウ ム等の開催			
	沖縄県文化年鑑の作成(各年度)			1回以上 公演回数			
	文化講演の実施			地域の伝統芸能を集め た公演			
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
地域の伝統文化継承支援事業	7,779	7,779	県内各地域で実施されている伝統行事、伝統芸能、しまくとぅばの取組等の情報収集を行った。文化講演としてシンポジウムを3回実施し、計274名の来場者があった。 各地域における伝統行事の年間の実施日等をまとめ、データベースの基礎となる報告書を作成した。 年鑑の作成については、類似の冊子との差別化が困難で有り、作成しなかった。普段は地域の祭事等でしか披露されていない、各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演「特選 沖縄の伝統芸能」を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果
順調	<p>国指定文化財、県指定文化財、市町村指定文化財の調査を行い、行事等の実施状況を報告書にとりまとめたことにより、未来につながる情報の蓄積が図られた。</p> <p>離島を含む県内3地域(宮古島市、南城市、沖縄市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化講演(シンポジウム)を行い、地域の伝統行事等の発信及び活性化を図った同シンポジウムでは、「継承はなんとなく行われていくと思っていた。今回意識することができ、私にもできることがあると思う」などの声が聞かれた。</p> <p>また県内各地域で披露されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場おきなわで披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行うことで、自らの地域の伝統芸能等の再認識が図られた。以上の取組により、自らの地域の伝統文化等の情報共有や大切さを再発見することができたと考えられる。文化年鑑の作成はとりやめたが、本来目的である伝統行事等の後継者不足等の課題解決には貢献していると考えられ、順調である。</p>

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	7,600	後継事業として、地域文化継承支援事業を実施する。当該事業では各地域の伝統芸能を集め「特選 沖縄の伝統芸能」として国立劇場おきなわで公演を行うとともに、地域文化の公演や伝統芸能に関するシンポジウムも行う(4回開催予定)。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>シンポジウムではすべて「しまくとぅば」をテーマの一つに掲げた(「クイチャー」×「しまくとぅば」(宮古島市)、「村の組踊」×「しまくとぅば」(南城市)、「ウスデーク」×「しまくとぅば」(沖縄市))ことにより、各地の伝統芸能、伝統行事の再認識とともに、文化の基層であるしまくとぅばの再認識にもつながった。</p> <p>シンポジウムの名称が分かりづらい、という声があったことから、地域で、地域の方によるという意味を含め「サーキット」→「シマDEシンポジウム」に変更した。</p> <p>また集客については新聞広告も利用することや市町村の会報に載せるなどを行った。</p>
--

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
講座の参加者数等	165名 (24年度)	306名 (25年度)	274名 (26年度)	↗	—
状況説明	地域の伝統芸能の情報収集だけでなく、公演の場を設けたり、地域ごとの特色あるシンポジウムを開催し、地域の方を中心に274名の参加者を集めるなど、情報発信も行い、地域の伝統行事などの掘り起こしを行うことで、各地域の文化資源に光をあてていく。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。 ・シンポジウムの開催にあたっては、集客(広報)をどうするのか。 ・シンポジウム参加者の今後の行動をどう促していくか。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。 ・シンポジウム参加者に対し、アンケートを行い、効果を測り今後につなげる必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する。
- ・シンポジウムの効果をさらに波及すること、検証するためのアンケート調査を実施する。アンケート項目は「関係者をどれだけまきこめたか」「どんな行動をとってもらいたいか」「どんな学習ができたか」という観点から、「どのようなインパクト(社会的影響)があったか」を検討できるよう設定する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	③文化財の適切な保存			
(施策の小項目)	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還			
主な取組	沖縄遺産のブランド開発・発信事業	実施計画 記載頁	48	
対応する 主な課題	○「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化財の適切な保存を目的に、県立博物館・美術館による旧石器人遺跡等の埋蔵文化財の発掘調査を実施する。また、出土品・遺跡等の展示・公開をし、観光産業に利活用する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	県立博物館・美術館による 旧石器人遺跡の発掘調査					→	県
	出土品・遺跡等の展示・公開および観光への利活用等						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄遺産の ブランド開 発・発信事 業	22,962	16,374	事業成果に関する情報管理の徹底を図ったうえで、南城市サキタリ洞遺跡において発掘調査を実施し、出土品についての調査研究を実施した。 また、事業成果を県立博物館・美術館にて開催された2回の講座(参加者177名)、および発掘期間中に実施した現地見学会(参加者869名)において発信した。	一括交付 金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
県立博物館・美術館による更新世人類遺跡発掘調査の実施			—	1件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	事業を実施した結果、平成26年度には9千年前以前のもので推定される1体分の人骨を発見した。人骨は頭骨を含む上半身の骨が揃ったもので、日本最古級の埋葬人骨の可能性が考えられる。また、人骨発見を受けて記者発表を行い、現地見学会を開催したところ、869名の参加者があった。 なお、25年度に現地での発掘を終える計画であったが、想定よりも多くの事業成果があり、27年度も引き続き行うこととなった。26年度の調査は順調である。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	24,995	沖縄遺産の目玉となる更新世人骨の発見を目的として、沖縄島南部において発掘調査および調査研究を実施するとともに、出土品・遺跡等の展示・公開および観光への利活用を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

事業成果に関して、拙速な公表は誤認や不正確な情報発信につながるため、慎重かつ正確な情報発信が必要であり、調査研究に関して外部の専門家による検討会議を開催し、調査・研究の妥当性について検証するなど、事業成果に関する情報管理を徹底した。
 また、事業成果を効果的に発信するため、平成26年度において情報発信用のコンテンツの作成を行い、27年度よりそれを活用して、インターネット上で情報を公開する予定である。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明 H26年度は、南城市サキタリ洞遺跡において発見された、9年前以前のものと考えられる1体分の人骨を公表した。本事業では、H24年度に約1万4千年前の人骨と石器、H25年度に約2万年前の人骨と貝器が発見されており、H26年度の人骨を含めて3件の人骨(更新世=旧石器時代のもの2件、および9千年前以前のもの1件)を発見した。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・昨年度に引き続き、H26年度の調査研究においても、想定を上回る重要な発見があったため、事業成果の公表までに必要な調査研究に時間を要すること、またその内容をより拡充して実施すべきことが、引き続き推進上の留意点となっている。特にH26年度に発見された9千年前以前のものと考えられる1体分の人骨は、きわめて保存の良いもので、埋葬された可能性がある。仮に埋葬人骨であれば、国内最古級のものとなる。このため事業期間の延長について検討する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・事業成果の迅速な公表が課題としてあげられる。一方、拙速な公表は誤認や不正確な情報発信につながるため、専門的知識にもとづいた慎重かつ正確な情報発信が必要であり、専門スタッフの増員をすることにより、発見から公表までの時間短縮、公表内容の充実を図る必要がある。
 ・事業成果について、博物館内の展示や新聞報道だけでなく、インターネットや各種メディアを通じた組織的な情報発信を実施することによって、より効果的な調査成果の普及をはかっていく必要がある。また、調査成果を普及するパンフレットや刊行物を充実させていく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・より充実した調査を実施し、正確な情報発信を行うため、発掘調査を本年度まで延長して実施する。
- ・事業成果をインターネット上でも普及するため、平成26年度において作成した情報発信用のコンテンツを活用し、27年度よりそれを活用して、インターネット上で情報を公開する予定である。
- ・本年度は調査成果に関する県外での移動展を予定しており、移動展の内容および、これに関連する刊行物等を充実させることにより、さらなる情報発信をはかる。